

図書

としょだより

だより

問い合わせ先

泗水図書館 ☎0968 (38) 6866
 中央公民館図書室 ☎0968 (25) 1672
 七城公民館図書室 ☎0968 (25) 1580
 旭志公民館図書室 ☎0968 (37) 3111
 内線303

閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日
 中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
 七城公民館図書室 日曜日・祝日
 旭志公民館図書室 日曜日・祝日

※図書のイベント情報は、32ページの行事予定へ掲載しています。



教育の発展のため、基金の一部を使い、「打出図書文庫コーナー」を開設しています。本年度分の図書が届きました。(中央)

新着・お薦め図書

学研のウン？ホント？シリーズ

僕たちのおすすめの本は、日本史人物のウン？ホント？です。この本の内容は、歴史のことが出て来て、ウンかホントでこたえます。最後には、答えがでてそれから説明が書いてあります。その説明を読むと、「ふうんそうなんだ」となってとてもおもしろいですよ。

テスト前とかでもこの本を見ると、色々な事が書いてあってとても勉強しながら楽しく覚えられますので、とても便利な本です。ウン？ホント？の本は、歴史シリーズだけじゃなく、野球や、動物、恐竜など色々なシリーズがあり



迫 海寿さん、中武敦志さん (限府小6年)

ます。みんな楽しそうなお本ばかりです。とくに、僕たちがすすめる本は、歴史シリーズと、野球シリーズです。勉強にもやくだつウン？ホント？シリーズをぜひ読んでみてください。

パーシーの魔法の運動ぐつ ウルフ・スタルク作

わたしがすすめる本は、パーシーの魔法の運動ぐつという本です。この本はパーシーシリーズのひとつで、学校の図書室には、魔法の運動ぐつのほかに、パーシーとアラビアの王さま、パーシーと気むずかし屋のカウボーイの3種類が置いてあります。

主人公は、ウルフとその親友のパーシーという二人の男の子の物語です。ある日、ひよんなことから、パーシーとウルフは、親友になりました。パーシーは、なんでもできてウルフとは、大ちがいでした。実はパーシーには秘密がありました。パーシー



山本千乃さん (限府小6年)

がはいている運動ぐつは、「魔法の運動ぐつ」だったのです。その魔法の運動ぐつさえあれば、何でもできる！そう思ったウルフは、パーシーにある約束をとりつけます。その約束とは、魔法の運動ぐつをもらうという約束です。そしてその後は？おもしろいお話なので、ぜひ読んでみてください。

耳より情報

平成22年度おはなし講座 (その1)

「子どもの本、女優が読むと・・・どうなる？」

大津町在住で、演劇者として各方面で活躍されている木内美さんをお招きして、お話や絵本の読み聞かせをしていただきます。どなたでも参加できますので、ぜひお越しください。

とき 1月22日(土)午後1時30分～午後3時
 予告 次回は、2月5日(土)高野和歌子さんのお話です。(泗水図書館)

臨時休館のお知らせ

とき 2月1日(火) (泗水図書館)

きみはほんとうにステキだね



チア男子!



宮西達也 著 (ポプラ社)
 暴れん坊で自分勝手なきょうりゅうのティラノサウルスがいました。ある日、心優しいエラモサウルスに出会い、友達になりました。本当の友達の意味を教えてくれる感動の友情物語。(旭志)

朝井リョウ 著 (集英社)
 柔道に打ち込んできた晴希と一馬はそれぞれの理由から柔道部を退部。大学チアリーディング界初の男子だけのチームを結成した。個性的なメンバーが集まり笑って泣ける長編スポーツ小説。(泗水)

旭志文芸俳句会 11月詠草

秋澄むや大空わかち飛機過ぎる 水谷 ミネ
 生い茂る河川の中や草紅葉 中尾ヨシコ
 縁側に深く差し込む秋日かな 東 芳子
 幾度も思い惑えり罌雲 芹川のり子
 寒露来てカレーも久し夕餉かな 芹川 蓉子

せせらぎ俳句会 11月例会

やしやごらし七五三の見舞ひの娘 内村 泊虹
 菊香り百寿の祖母は永眠す 服部 静子
 祭り終え首外されし菊人形 藤本 邦治
 命あるものを着せられ菊人形 五丁 義昭
 見回せば皆息白し交差点 渡辺 一史

万句の里俳句会 11月句会

グラウンドは少年野球草紅葉 吉井 綾子
 籠りる吾を誘ふ小春かな 丸山美代子

七城短歌会 11月詠草

「いい夫婦の手紙」に入選仏壇の夫へ 賞状賞品供う 岩崎 照代
 朝空にうつすら浮かぶ月連れてゆつくり登るみ墓への道 松岡みちえ
 ひまわりとコスモスの花咲く休耕田 四季折りおりの条理薄らぐ 吉間 充子
 「長者とん」のミュージカル劇幕があく緊張たかぶる家来役われ 緒方 寛子
 通院の車窓に見えて鳩枯れ草の間の水面を駆ける 村上 幾雄

菊池短歌会 11月詠草

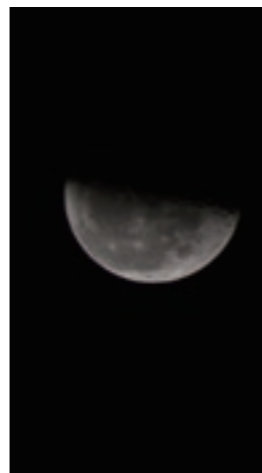
咲き競ふ秋明菊の華やぎにいつか嘆きも鎮まりてをり 黒田 衣子
 古傷は一二にあらず今さらにせん方もなし冬芝を刈る 古賀 勝士
 晩秋の野がありわが家の墓地が見ゆる 名知らぬ峠越えなむとして 竹野美智代

泗水短歌会 11月詠草

肩の凝りみずからほぐす敬老日少し やさしき独りごととして 中川 愛子
 子守り唄聞こえはせぬか島原の野菊しだるる間道ゆけば 中原ちえ子

肥後狂句水笑会 11月例会

水の舞うた 大吊り橋ばもどられん 井出 水光
 上がり口 回覧板が座り込み 続 義昭
 目の舞うた 四つん這して行くトイ レ 中島 五女
 上がり口 つこけまわって登らなん 御手洗三代 山隈 好茶
 ボールペン 買うてすぐから便秘する 平嶋きくえ



肥後狂句桜会 11月例会

いざ勝負 馬の目も血走ってきた 田中 孝幸
 誇らしげ 膨れた財布ちらつかせ 田中レイ子
 希少価値 鑑定団が評価さす 田尻 浩風
 サンタ日く 玩具になったビール代 高木 房恵
 よか顔ぶれ 奥さんの心配の種 高倉 新米

文芸

ぶんげいきくち

きくち